

平成 30 年度青森市子ども会議臨時会議 （「まちづくり」グループ活動）開催概要

【1 日目】

- 1 日時 平成 30 年 8 月 8 日（水） 13 時 00 分～16 時 00 分
- 2 場所 青森市総合福祉センター2 階 集会室
- 3 出席者 子ども会議委員 4 名（欠席者 6 名）
事務局 3 名

4 開催概要

「まちづくり」グループは中学生 3 名、高校生 7 名の 10 名が参加しています。

まず、今回初めて子ども会議に参加する委員がいたので自己紹介と、なぜまちづくりグループを選んだのか、このグループで何がしたいのかを発表し合いました。その結果、青森市全体のまちづくりをテーマとするのは難しいので、自分たちが特に興味のある中心商店街を取り上げたいということになりました。



次に、中心商店街、駅前、新町などの現状と、子どもたちに人気のある郊外のショッピングセンターとの違いについて話し合いました。「若者向けの店が少ない」「家族で行ける店が少ない」「もっと休憩スペースが欲しい」「駐車場問題がある」などの意見が出ました。そして、中心商店街に望むことは「集まる場所や、話をしたり休憩したりできる場所が欲しい」ということでした。一方、「サラリーマン向けの店は増えてきた」「外国人観光客が増えた」「クルーズ船がたくさんきている」「コンビニが多くて便利」などの意見もありました。

それらをまとめ、中心商店街活性化のため、大型客船で来た訪日外国人向けのパンフレット、それも他のパンフレットにないような、ここに住んでいる人間だから知っている店やスポット、あえて方言を活用したものなどの多言語観光マップを作りたいということに考えがまとまりました。初回で具体的な案まで出すことができました。

【2 日目】

- 1 日時 平成 30 年 8 月 16 日（木） 9 時 00 分～15 時 00 分
- 2 場所 青森市新町周辺、青森市総合福祉センター2 階 集会室
- 3 出席者 子ども会議委員 3 名（欠席者 7 名）
子どもサポーター 1 名
事務局 2 名

4 開催概要

前回、外国人観光客向けの多言語パンフレットを作りたいということになったので、自分たちで現地を見ながら調査活動することとし、中心商店街などをボランティアがガイドしてくれる「あおもり街てく」に参加することにしました。この日は「青森市観光交流情報センター」の工藤センター長が対応してくれました。

まず青森駅前からスタートし、八甲田丸、A-FACTRY、ラブリッジ、ワ・ラッセ、青い海公園、ラッセランド、新町商店街をめぐりました。青森駅のホームの長さが日本一だったこと、青森市は青函連絡船とともに港町として栄えたこと、ラッセランドが出来た理由、ねぶたが新町通りや街路樹、ベイブリッジなどに影響を与えていること、新町のアーケードやアートの話など様々な話を伺いました。最後に、青森市役所駅前庁舎の1階で感想を発表したり、工藤センター長に質問をしたりしました。



子ども会議委員：「普段新町を歩いていたのに知らないことが多かった。」

工藤センター長：「教えてもらったことがないのだから、知らないことは決して悪いことではない。人によって感じるまちの魅力は違うし、便利だからいいとは限らない。例えば、すぐには行けないという不便さが魅力になることもある。」

子ども会議委員：「穴場のマップを作ろうと思うが需要はあると思うか。」

工藤センター長：「何のために作るのかということが重要である。人に来て欲しいのか、そのことを知って欲しいのかなどの目的をもって作らないと意味のあるものはできない。意味のあるものができれば需要は出てくると思う。」

子ども会議委員：「地図は、青森に来た方に楽しんでもらいたいと思うので作りたい。」

工藤センター長：「一番大事なのはリサーチである。地図の作り手が実際に見たものや想いの届く内容でないと魅力は伝わらない。また、実際に現地に行って了解をとることが大事。子どもが作ることに意義・意味があるのだから失敗もあってよいと思う。ただし、その失敗や間違いにより、観光案内所やお店に苦情が来ることもあるので、そのことも考えて作って欲しい。」

などの話をしました。その後、総合福祉センターに戻り、今日の調査活動などを元に話し合いをしました。

「観光マップを作るのは色々ハードルが高い。」「実際に現場を見て作るマップでないと価値が出ない。時間も労力もかかる。」「観光客を呼び込んでもまちの活性化は手段としても本質的ではない。」と



という意見が出された一方、「今日の調査で、集まることができるスペースや、自分たちの知らなかった喫茶店やお店、新町の魅力などが分かった。地元の魅力やお店などをまとめたマップ、情報などを発信したい。」という意見もありました。

これらのことから、地元の若者向けのマップ付きの情報誌を作成し、新町魅力を発信し活性化を図るという新しい方針ができました。